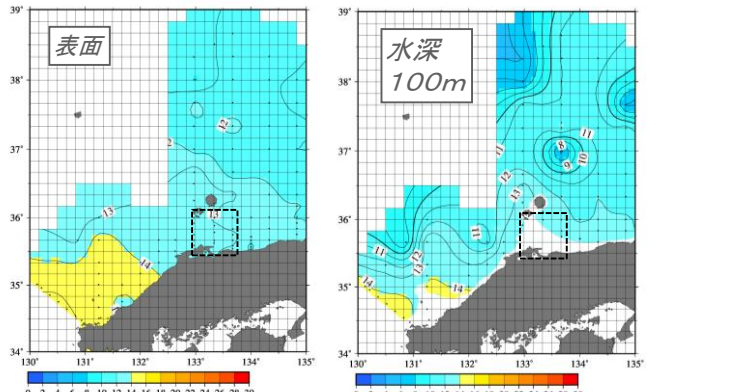
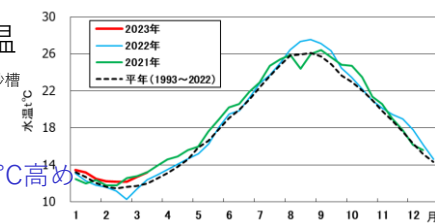




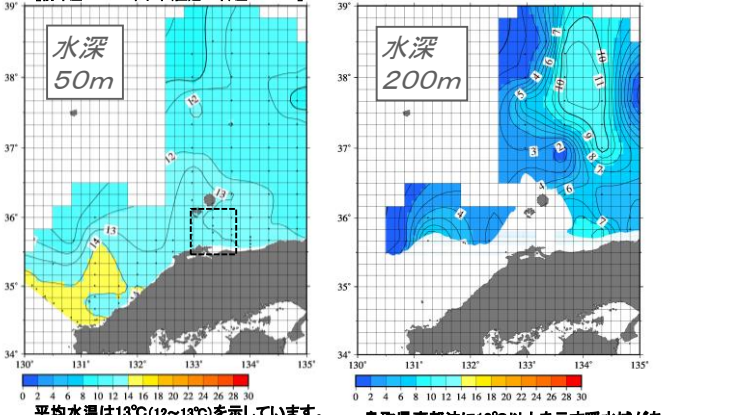
鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)
3月中旬 1.3℃
2年より 1.2℃高め



隼崎海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は13.2℃(12~13℃)を示しています。【前年差:+0.86℃、平均(直近30年)差:+0.85℃】

平均水温は12.6℃(12~13℃)を示しています。【前年差:+0.62℃、平均(直近30年)差:+0.88℃】



平均水温は13℃(12~13℃)を示しています。【前年差:+0.74℃、平均(直近30年)差:+0.6℃】

鳥取県東部沖に10℃以上を示す暖水域があります。

水産試験場

令和4年度第2回境港地区漁業連絡会議

3月16日(木)に境港地区の水産関係者を対象とし、海洋環境と沖合漁業が対象とする魚種の資源・漁獲状況や今後の見通しについて、担当研究を説明する会議を県境港水産物地方卸売市場にて行いました。概要は以下のとおりです。

- 4月上旬の海況見直し
 - 鳥取県沿岸部における表層の水温は12.6℃を示し、前年・平年(直近10年)より高めに推移。(前年差+0.9℃、平年差+1℃)
 - 鳥根沖冷水は鳥根沖N36°以北、山陰・若狭沖冷水は、鳥取・兵庫沖N38°以北に認められる可能性あり。
 - 鳥取県沖合域における対馬暖流の流路は、山陰・若狭沖冷水に沿ってN38°以北を東方向へ流れる。
- 漁況見直し

魚種	予報期間	コメント
浮魚類	スルメイカ	3月~6月 近年同様低調となり、前年・平年を下回る見込み。
	マサジ	前年・平年並み(1歳魚は比較的多そうだが、2~3歳魚が少なく、近年の傾向として大きく増減する可能性は低そう)
	マサバ	4月~6月 前年を下回って平年並み(水揚げの主体となる1~2歳魚が多い)
	マイワシ	前年・平年を上回る(資源量が増加傾向にあり、漁場形成しているため)
底魚類	松葉がに	2022年漁期結果(途中) 前年並みの漁獲量となる見込み(2023年2月末で前年比94%の漁獲量)。資源状況は低水準でその傾向が来漁期も継続する予想
	親がに	2022年漁期結果(途中終了) 前年並み(前年比92%)。(資源は下げ止まり傾向)来漁期以降、資源状況が徐々に向上し予想
	若松葉	前年並み(前年比112%)漁期前調査結果の想定より漁獲量が伸びず、松葉がに同様に資源状況が思わぬよう向上してこない。
	ズワイガニ全体	2022年漁期結果(途中) 前年並みの漁獲量となる見込み(2023年2月末で前年比94%の漁獲量)。オスガニで資源状況が思わぬよう向上してこない状況が見られる。(2018年以降幅規制の強化9.5cm→10.5cmにより獲り控えているはずの小型個体が少ない)一方で、2021年以降カニの高値が継続しており、漁獲金額は高水準を維持。
	ハタハタ	前年並み
	アカガレイ	前年並み
	ソウハチ	2023年予測 前年並み
ベニズワイ	資源は低位状態であるものの、浜田沖、隠岐西方海域等で良好な加入があるため、前年から若干増加する見込み	

(一社)漁業情報サービスセンター 水産関係者との意見交換会

上記の会議と併せて(一社)漁業情報サービスセンター主催の水産関係者との意見交換会も開催され、(国研)水産研究・教育機構 浮魚第4グループ長 黒田啓行氏による「マサバの資源について～資源評価と生態研究」、(一社)漁業情報サービスセンター 水産情報部長 渡邊一功氏による「マサバとマサジの来遊状況～生物特性と脂肪」についての発表があり、参加者との意見交換も活発に行われました。



令和4年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

潮に夢を **共和水産株式会社**
代表取締役 前橋 知之
〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530

3月上旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水域	観測未実施のため不明
隼崎諸島北方の冷水域	隼崎諸島北緯N37°20'以北に10℃以下の冷水域が認められます。
山陰・若狭沖冷水域	兵庫県沖N37°20'以北に10℃以下の冷水域が認められます。
その他冷水域	鳥取県沖N36°40'以北に10℃以下の冷水域が認められます。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向い、一部が隼崎諸島北方冷水に沿って北東に流れると考えられます。鳥取県沖では冷水域南方を走りN38°以北を東方に向かう流れが生じる可能性があります。

*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています。是非ご利用ください。

水産振興課・漁業調整課

「**魚魚(と)のいまた!!**」
ととりの「**四季の県魚**」×大喜利キャンペーンを開催しました!
令和4年7月18日(海の日)に制定した「四季の県魚」(20魚種)のさらなる知名度アップと県内外での消費を促すため、当企画を開催し、各季節の県魚ごとに最優秀賞(各季節1名)、優秀賞(各季節4名)を決定しました。

春の代表「もさえび」	夏の代表「マサジ」	秋の代表「ベニズワイガニ」	冬の代表「マダラ」
オレたち活かっています	こういうのを「密のアジ」って言うんだな。	中身の詰まった話をしようじゃないか。	また目が合いましたね
【優秀賞(各季節4点)】	【優秀賞(各季節4点)】	【優秀賞(各季節4点)】	【優秀賞(各季節4点)】

- 「四季の県魚」に関するお題:「この○○、何とつぶやいていそう?」
- 参加方法:お題の写真を当課ホームページ又はTwitterの『鳥取県「四季の県魚」』公式アカウントで確認し、同アカウントから投稿する。
- 投稿期間:令和5年2月11日~23日まで(18日間)
- 参加者数 775人
- 総投稿数 2,177回(うち有効投稿は2,128回)

※賞金にはプレゼントもお贈りしました!
最優秀賞:松葉がに1枚(オイルもの)
優秀賞:東産品セット(干物、星空煮)

栽培漁業センター

2022年の沿岸主要魚種の水揚げ結果

米子市漁協を除く速報値による総水揚量(金額)は、過去最低の2,458^{万円}(19.7億円)となりました。沿岸主要魚種の水揚量を表にまとめました。直近5ヶ年平均に対して増加したのは、あじ類、イワガキ、サザエの3魚種でした。それ以外の魚種では軒並み直近5ヶ年平均を下回りました。特に漁獲量の減少が大きかったのはサワラ、ぶり類でした。サワラは美保湾での越冬個体が少なく刺網での漁獲が減少しました。海水温の温暖化に伴う漁場の北偏化が考えられます。ぶり類は資源状態は良いものの、沿岸域に漁場が形成されなかったことにより漁獲量が減少したと考えられます。

魚種	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2017-2021 5ヶ年平均	直近5ヶ年比
スルメイカ	1,268	973	722	901	666	556	966	58%
ぶり類	591	606	478	538	470	311	553	56%
サワラ	480	907	881	368	338	241	659	37%
ケンサキイカ	281	358	167	101	154	104	227	46%
あじ類	242	246	203	203	207	254	224	114%
イワガキ	164	134	82	79	110	129	116	111%
とびうお類	129	131	114	72	62	76	97	78%
サザエ	122	115	122	99	118	122	116	105%
かわはぎ類	100	58	46	63	89	33	65	51%
ソデイカ	69	111	24	37	18	27	48	57%
ヒラメ	31	35	35	25	21	17	27	62%

*スルメイカは19トンイカ釣りの漁獲量が含まれます。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社
本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330